

## 体験型海外教育実地研究 第5学年 異文化理解

### 「Original Box Lunch」

教育学研究科 学習科学専攻 カリキュラム開発専修 永 杉 茂 仁

#### 1 はじめに

私が体験型海外実地研究への参加を決めたのは、単に海外旅行をするのでは体験することのできない、アメリカの学校訪問と授業を経験してみたいと考えたからである。また、学部生時代には中・高の英語の教員免許を取るため、英語を勉強していたので自分の英語がアメリカの子どもたちに授業という場で伝わるか挑戦してみたかったということもある。そしてこの経験が今後の自分にとって必ず成長させるものになると感じ、参加させていただくことになった。実際に自分の肌で感じた10日間の体験は何にも変えることのできない充実した時間となった。

#### 2 実地研究の日程と概要

月日	曜	交通等	訪問地・用務等	宿泊地
4/24	水	渡航までの日程, パスポート, ESTA, 授業研究テーマ事例,		部屋割り
5/15	水	授業研究テーマ案の交流・テーマの設定		
6/6	木	学習指導案の検討		
6/11	火	学習指導案の検討		
6/24	月	学習指導案(英語版)の検討		
7/1	月	学習指導案(英語版)の検討		
7/6	土	第9回学校間交流国際フォーラム		
7/7	日	ワークショップ: 学習指導案および教材・教具の検討		
7/22	月	保険説明 (学習指導案の検討, 指導案の提出について)		
7/23	火	保険説明 (学習指導案の検討, 指導案の提出について)		
8/26	月	準備状況確認, 報告書・教材集・発表会について, 渡航準備・関係書類提出		
9/9	月	最終事前打ち合わせ (準備状況, 準備物・集合時刻等の確認)		
9/14	土	広島—成田 0755-0935 (NH-3236) 成田—ワシントン ダラス 1105-1040 (NH-2) ワシントン ダラス—ローリー 1220-1329 (UA-4880) 空港 — (ウォーレン先生・ECU バス) →City Hotel & Bistro		アメリカ・ノースカロライナ州 City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 TEL(877)2712616 Greenville
9/15	日	(ウォーレン先生・バス)	ミーティング, ホテルにて教材作り 各学校の先生方と事前打ち合わせ レセプションパーティ	Greenville 同上

9/16	月	City Hotel →Elmhurst 小学校へ (ウォーレン先生・バス)	学校訪問 (Elmhurst 小学校) 学校の説明, 校内見学, 授業見学 (Wanda 先生, 校長先生を中心に) 担任の Lindsay 先生と授業の打ち合わせ ティーチャーズショップ訪問 ECU 学生ストア訪問 図書館, リソースセンターの見学 ECU 学生食堂で夕食会	Greenville 同上
9/17	火	City Hotel →Elmhurst 小学校へ (ウォーレン先生・バス)	学校訪問 (Elmhurst 小学校) 授業準備 授業実践 (Elmhurst 小学校) (永杉: 9:15-10:15 60 分間) ECU フットボールスタジアムで夕食会	Greenville 同上
9/18	水	City Hotel → ECU (ウォーレン先生・ECU バス)  ECU → ローリー (ECU バス)	午前 ECU の講義に参加  午後 ローリーへ移動 歴史博物館見学 市内観光	ノースカロライナ州 Clarion Hotel State Capital 320 Hillsborough Street Raleigh, NC 27603 TEL(919)8320501 Raleigh
9/19	木	徒歩で, Exploris M.S.へ	学校訪問(Exploris M.S.)  午後 ローリー市内見学 自然史博物館, キッズミュージアム 見学 Exploris M.S.の先生方と夕食会	Raleigh (同上)
9/20	金	ローリー→ワシントン ダラス 1021-1134 (UA-4887) (空港→ホテル間はタクシー)	ワシントンへ移動 アメリカ文化体験 ショッピング等	Washington Plaza 10 Thomas Circle, Northwest, Washington,DC 20005-4176 TEL (202)8421300 Washington, DC
9/21	土	徒歩	アメリカ文化体験・Book Fair スミソニアン博物館群見学 ホロコースト博物館見学など	Washington DC(同上)
9/22	日	ワシントンダラス→成田 1220-1525 (NH-1)		
9/23	月	成田→広島 1740-1915 (NH-3237)		

### 3 実地研究授業

#### 3.1 単元名 第5学年 異文化理解「Original Box Lunch」

#### 3.2 事前準備

##### ① 単元設定の理由

本授業では、日本の弁当、特に最近の子どもたちに人気のあるキャラクター弁当を教材として取り上げ、食事について考えるきっかけとすること、他国の文化について知り、自・他国の文化について考えることをねらいとした。

また、現在、日本食は健康的なイメージがあり世界中で注目を集めている。アメリカでも健康的な食事に関心が高まっていることから、自分自身の食事を考え、食材の品目や量などを考えた栄養バランスの良い弁当をデザインすることもねらいとしている。

##### ② 準備したこと

日本で特に幼児、小学校低学年の子どもたちに流行っているキャラクター弁当を出発点として食事に関して興味を持たせたかったため、パワーポイントなどを用いて視覚的にイメージをもたせるように心掛けた。さらに授業中に子どもたちとコミュニケーションを図りたかったので、簡単な表現で子どもたちに伝えることができるよう事前の英語での細案作りに時間をかけた。

また今回は、広島大学付属三原幼稚園の園児の実際の弁当を写真として使わせていただくことができ、実際の食事の様子やキャラクター弁当の内容を見せたことで、日本の食事文化に触れ、子どもたちの関心を引くことができたと考える。

#### 3.3 学習指導案

Lesson Title : Original Box Lunch

Lesson Author : Shigehito Nagasugi

Date : September 17th, 2013

Grade Level : 5<sup>th</sup> grade

Subject : Culture

Description : In this class, students think about their eating habit through a character box lunch and notice the difference of each culture. Then, each student will design his or her original lunch box to think for good health.

Objectives : As a result of this activity, it will be possible for children to

1. Know about Japanese eating culture.
2. Have an opportunity to think about meal for good health.
3. Design a lunch box.

Teaching process :

Activity	Teacher's activity	Materials
1. Look at a picture of character lunch box and	1. Explain today's activity. Learn about lunch box.	Pictures of character lunch box

<p>think the reasons of the appearance.</p> <p>2. Learn about Japanese lunch box culture.</p> <p>3. Choose the character lunch box each other and explain why they chose it.</p> <p>4. Think about lack of foodstuffs in the picture they chosen.</p> <p>5. Design a lunch box.</p> <p>6. Introduce their own original lunch box to their friends.</p>	<p>2. Explain Japanese lunch box culture.</p> <p>Ex). The culture of cramming beautifully is the one of <i>bento</i> culture.</p> <p>3. Show some pictures of character lunch boxes, and ask which you want to eat and why.</p> <p>4. By Comparing character lunchbox with “Choose My Plate”, students think about healthy meal.</p> <p>5. Let them design an original lunch box freely.</p> <p>6. Ask what their special points are.</p>	<p>Drawing paper</p> <p>Crayons</p> <p>Colored pencil</p>
--	---	---

### 3.4 授業の実際

まず簡単なあいさつを行い、唐突にとっても手の込んだまるで弁当には見えないキャラクター弁当の写真を見せて、これは何かという質問をした。少し考えさせてから答えを教えた後で、今日は弁当を通して食事のことについて考えていくということを伝えた。子どもたちは、食べ物とキャラクターに興味を示し、積極的に授業に参加するような雰囲気を作ることができた。

次に、日本の弁当文化について紹介した。写真を用いて紹介をしたが、実際の幼稚園児の弁当を見せたときに子どもたちは本当にキャラクター弁当を食べているのだというような驚きがあった。

そして、弁当の写真をもとに栄養のバランスについて考えた。「Choose My Plate」というアメリカの食事バランスを考える図表を用いて写真の弁当に足りないものは何かを見つけるという課題を提示した。子どもたちは食材が5種類ある栄養素のどれに属しているのか判断するのが難しいらしく、時間がかかる子も中にはいた。

その活動が終わった後、最後にこれまでの学習を踏まえて自分オリジナルの弁当をデザインする活動を行った。今まで見せた写真の弁当を少しまねてアレンジしてみたり、全部自分のオリジナルのデザインを考えたりとアメリカの子どもたちの自由な発想を見ることができた。特に弁当のカラフルさは日本にはないもので、アメリカならではの食の感覚が表れたものもあった。



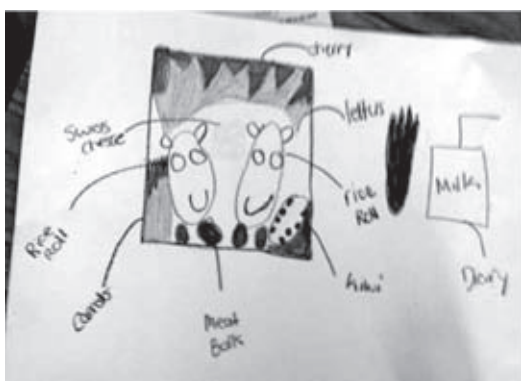
### 3.5 考察

本実践での成果、課題を3点挙げる。

まず良かった点として、概ね本実践のねらいであるバランスの良い食事を意識させることができたことである。これは授業の初めに、今日行う学習はバランスの良い食事について考えることだと伝え、授業の中でも「バランスの良い」というキーワードを提示していたこと、担任のLindsay先生と連携して子どもの理解の状態を把握することができたことなどが要因として挙げられる。自分の考えを形にするという創作的な活動も子どもたちの意欲と合致して、自由な発想を表現させることができた。また、幼稚園児の実際の弁当を見せたところ、子どもたちが大変興味をもっていただろう。アメリカの子どもたちに弁当の感想を書いてもらい、それを幼稚園に返すことができたので間接的ではあるが子どもたち同士の交流の場を作ることができたのではないかと考えている。

課題の1つ目は、授業の内容を詰め込み過ぎた点である。幼稚園児の弁当に関して感想を書かせること、日本の弁当文化を伝えること、オリジナルの弁当をデザインさせることなどを一度に行ったため、実際の時間を約10分過ぎてしまった。詰め込み過ぎた分、子どもたちの中では情報過多になったかもしれない。

2点目は授業構成を固めすぎて、子どもたちの実態に合った変更ができなかった点である。大きな授業プランの変更はできなくても、子どもの現状に早く気づき、適切な言葉がけや授業のやり方を変えることができれば、子どもたちももっとスムーズに活動に移れたのではないかと反省している。



## 4 体験型教育実地研究における自己変容

### 4.1 教育観の変容

海外の教育についての知識はほとんどなく、実際の教室でどのような教育が行われているのか、どのような面に力を入れているのかに大変興味があった。その中で自身が感銘を受けたのは、Exploris M.S.が行っている博物館を使ったコア・カリキュラム教育であった。Exploris M.S.は近くに博物館があるという特別な環境にあるが、それをうまく活用していく授業の方法とそれを行うことができる教師の力というのは、これから自分も身につけていかなくてはならない力だと感じた。

またアメリカの人たちは自由だというイメージが自身の中にあっただが、実際に教育現場を見てみると思ったより規律が厳しく低学年のうちから厳しく指導されているという印象を受

けた。勝手な固定概念は誤ったものの見方をする原因になってしまう。それを取り除くためには実物を見たり自分で体験したりすることが大切であるということを改めて感じた瞬間だった。

#### 4.2 自分自身についての変容

10日間の研修を経て、自分自身に一番足りないと感じたものは「積極性」である。アメリカについてすぐ、学生たちは皆自分の英語力に自信がなく外国の方とコミュニケーションすることを避けていたように見えた。しかし、日が経つにつれて積極的にかかわろうとする姿が多く見られるようになった。自分自身はそのような姿を見てもどうしても一歩引いてしまうことがあり、英語を使う機会を自ら失っていた。意識するようになってからはアメリカについてすぐの頃よりは他者に関わっていくことができたが、まだ不十分だったように感じる。大学院に入って、学部生時代では経験できない機会をたくさんいただいているので、今後 GPSC で感じたことを無駄にしないよう積極的に様々なことにチャレンジしていきたい。

#### 4.3 グローバルマインドに関する変容

GPSCに参加したことによって、海外の方とのつながりをもつことができた。人との出会いは、自分以外の考え方、文化に触れることで自分を成長させてくれるきっかけになる。今回できたつながりを可能な限り継続させて、英語力向上とともに多様な価値観を理解していけるような人になりたい。

また、「伝え合おうとする姿勢」「学ぼうとする姿勢」は国に関係なく共通で、他者理解のため必要なものだと強く感じた。自分自身もこの姿勢を大切に、将来教師になった時に子どもたちにも伝えていきたいと思う。

「留学は自分を写す鏡」という言葉を深澤先生から頂いたが、その言葉通りアメリカの滞在を経験することで日本のことを考え直す機会になった。他国の文化を体験することで日本の良さを再発見し、日本に対する愛着が増した。また、アメリカの文化や日本のことに関する知識の無さを ECU の学生と話した時に強く感じた。将来教育に携わることを目指している者として教育についてはもちろんそれ以外の日本の文化をもっと勉強していきたい。

### 5 おわりに

今回の体験型海外実地研究では普通の海外旅行では決して体験することのできない経験をさせていただくことができました。特にアメリカの学校で授業・見学ができたことは、今後教職に就いた時のグローバルな社会を考えていくうえで非常に価値のある経験になりました。このような経験をすることができたのは指導案検討などの準備をはじめ大勢の院生をサポートしてくださった GPSC の先生方、ECU のウォーレン先生をはじめ多くの方のご支援があったからです。心より感謝申し上げます。

